

# 自衛隊奨学生（防衛装備庁・研究職技官）

2026 年度（令和 8 年度） 募集要項

## 1 制度の概要

本奨学生制度は、現在、大学及び大学院等において学んでいる有為な理系学生で、その専攻した学術を活かして将来防衛装備庁の研究職技官として勤務する意思を持つ者に対し、防衛省より学資金を貸与する制度です。

## 2 令和 8 年度の募集の概要

- ・名称: 自衛隊奨学生（防衛装備庁・研究職技官）
- ・種類: 貸与型奨学金（返還免除制度有）
- ・貸与金額: 月額 12 万円（年額 144 万円）
- ・募集人数: 10 名

## 3 求める研究分野

令和 8 年度募集において求める研究分野は下表のとおりです。

試験区分	研究内容
情報工学	1.ソフトウェアの脆弱性及びその脅威軽減に関連する研究 2.ハードウェアの脆弱性及びその脅威軽減に関連する研究 3.サイバー攻撃の手法及びそれに対する防護等に関連する研究 4.人工知能を活用したビッグデータの処理効率化に関連する研究 5.人工知能を活用した機械制御に関連する研究 6.人工知能を活用したセンシング技術に関連する研究 7.強化学習・深層学習等、人工知能の学習に関連する研究 8.人工知能を活用した最適設計に関する研究 9.フィジカル AI 技術に関連する研究 10.AI セキュリティ（Security for AI）及び AI を活用したサイバーセキュリティ（AI for Security）に関する研究
電気通信工学	1.無線システムのスペクトラム運用・適応信号処理・ソフトウェア無線に関する研究 2.電磁エネルギーの高効率な生成・伝送・評価に関する研究 3.レーダ/電波センシング（AESA、MIMO、SAR/GMTI、受動レーダ、マルチスタティック）に関する研究 4.無線通信の高効率化・高信頼化（波形設計、周波数ホッピング、ビームフォーミング、mmWave/THz）に関する研究 5.メタマテリアル/メタサーフェス、電磁環境両立性（EMC）、アンテナに関する研究 6.混信・マルチパス環境に強い高信頼通信の波形・プロトコル設計に関する研究 7.無線システム（MIMO、mmWave/THz、衛星通信、IoT）の設計・最適化・評価に関する研究 8.ネットワーク（モバイル、アドホック、メッシュ）のアーキテクチャ設計・運用最適化に関する研究 9.誤り訂正符号・符号化変調・情報理論の応用に関する研究 10.通信機器・RF フロントエンド・アンテナの設計・評価に関する研究 11.リモートセンシング・電波資源運用・認知通信に関する研究 12.耐電子妨害性技術に関する研究 13.電波・通信波解析に関する研究

船舶海洋工学	1.流体性能（推進性能・運動性能・耐航性能）、流体音響性能、制御にかかる研究 2.船体構造・材料、水中爆発にかかる研究 3.船用機器、航海（無人USV等）、動力源にかかる研究 4.船舶に関するM&S技術（MBSE、デジタルツイン等）に関連する研究 5.海洋（海況予報、リモートセンシング、海洋観測技術）に関連する研究 6.水中音響（送受波器、信号処理、音波伝搬）に関連する研究
機械工学	1.衝突/爆発荷重を受ける構造物の応答・破壊特性に関する研究 2.衝突/爆発現象における数値シミュレーションに関する研究 3.静荷重/疲労荷重を受ける構造の応答・破壊特性に関する研究 4.構造に関するM&S技術（MBSE、デジタルツイン等）に関する研究 5.耐熱材料・耐熱構造に関する研究 6.トライボロジーに関する研究 7.振動に関する研究 8.AM（Additive Manufacturing）技術に関する研究 9.超音速流れの数値シミュレーションに関する研究 10.燃焼シミュレーションに関する研究 11.熱流体シミュレーションに関する研究 12.爆轟（デトネーション）シミュレーションに関する研究

#### 4 受付期間

**令和8年4月8日（水）～令和8年7月31日（金）**（締切日必着・電子メールによる応募可）

#### 5 応募資格

以下のいずれの項目にも該当する者

- (1)令和8年4月1日現在、大学の第3学年以上相当（下表）に在学する学生
- (2)理工系分野を専攻している者（令和9年2月1日までに専攻しようとする者を含む）
- (3)下表に示す大学等の正規の課程を終了し、修士若しくは博士の学位を取得するとともに、防衛装備庁が指定する職員採用のための選考を経て、直ちに防衛装備庁の研究職技官として勤務することを約束する者
- (4)現在在学する大学等における学業成績が優秀である者

区 分		年 齢 等
大学の 第3年次 以上相当	大学の第3年次以上在学者	修士又は博士の学位を取得し、大学等の正規の課程の終了後、入隊すべき年度に属する4月1日現在において31歳未満である者
	大学院（修士課程・博士課程）在学者	
	短期大学の専攻科（※1）在学者	
	高等専門学校の専攻科（※1）在学者	
	専修学校専門課程の第3年次以上在学者（修業年限が4年以上であるものに限る） 専修学校の専攻科（※2）在学者	

上記の学校に相当する外国の学校に在学する者を含む

※1 大学等における修学の支援に関する法律施行規則（令和元年文部科学省令第6号）第1条第1項に規定する認定専攻科に限る

※2 学校教育法の一部を改正する法律の施行に伴う関係省令の整備等に関する省令（令和7年文部科学省令第21号）による改正後の同条第2項に規定する適格専攻科に限る

以下のいずれかに該当する者は応募することができません。

- (1)日本国籍を有しない者
- (2)自衛隊法第38条第1項の規定により自衛隊員となることができない者
- (ア)拘禁刑以上の刑に処せられ、その執行を終わるまで又はその執行を受けることがなく

なるまでの者

(イ)法令の規定による懲戒免職の処分を受け、当該処分の日から2年を経過しない者

(ウ)日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結成し、又はこれに加入した者

## 6 貸与期間

令和9年2月から、大学等の正規の課程を終了(※)する月まで

※大学学部(大学3年及び4年次の)2年、大学院修士課程2年、大学院博士課程3年での卒業・修了を基本とする

## 7 申請書類

申請の際には以下の書類をご提出ください。フォーマットに指示されている資料につきましては、防衛装備庁HPからダウンロードの上、作成してください。

- (1) 学資金貸与願書(所定様式)
- (2) 誓約書(所定様式)
- (3) 在学証明書(在学していない場合は最終学歴の卒業証明書)
- (4) 成績証明書(大学第1学年(相当する学年を含む。)以降の成績が分かるもの全て)
- (5) 学生証の写し(在学していない場合は顔写真付きの身分証の写し)
- (6) 住民票の写し(本籍記載のもの)
- (7) 外部英語検定のスコアを証明するもの(写し可、提出は任意)
- (8) 理数工系の表彰歴を証明するもの(表彰状等の写し(※)、提出は任意)

※表彰状等の原本は絶対に送付しないでください。送付された場合の返還には対応できません。

## 8 応募方法

本募集要項第7項の申請書類を電子メール(電子ファイル)又は郵送で提出してください。

## 9 選考

自衛隊奨学生(防衛装備庁・研究職技官)の選考は「一次試験(学業成績を含む書類による選考)」、「二次試験(筆記試験)」及び「三次試験(口述試験(面接)、身体検査)」により実施します。二次試験(筆記試験)は主要都市のテストセンターにおける Computer Based Testing 方式(以下「CBT」という。)の試験となります。また、外部英語検定のスコア及び表彰歴(国際科学オリンピックの表彰や学会の論文賞など、理数工系の表彰歴)

は加点の対象となります。

受理可能な外部英語検定のスコア及び令和8年度の二次試験の詳細は次のとおりです。

### 外部英語検定のスコアの詳細

外部英語検定の種類	注意事項	
TOEFL iBT® (TOEFL iBT® Home Editionを含む)	令和8年4月1日時点において、受験日から2年以内のもの、一回分のみ加点	TOEIC® L&R のオンライン受験のスコアは受け付け ない。会場試験のスコアのみ。
TOEIC® Listening & Reading test		
実用英語技能検定 (英検®)		実用英語技能検定の証明書を提出する場合は英検 ®CSE スコアが分かるもの

### 令和8年度の二次試験詳細

試験区分	試験科目		論述試験
	数学	専門	
情報工学	択一式 (以下から4問選択回答) 線形代数、ベクトル解析、微分積分、微分方程式、複素関数、確率統計、フーリエ解析	択一式 (以下から合計2問を選択回答) 制御工学、信号処理、電子回路、情報処理/最適化、電磁気学、通信工学、アルゴリズム、計算機アーキテクチャ、量子力学、機械力学	論述式 (以下に関連する問題、1問選択回答) 1.ソフトウェア信頼性・脆弱性管理の基礎に関するもの 2.ハードウェア信頼性・脆弱性管理の基礎に関するもの 3.組み込みセキュリティ/リアルタイム OS 安全性の基礎に関するもの 4.人工知能の工学的活用の基礎に関するもの 5.人工知能の学習の基礎に関するもの
電気通信工学		択一式 (以下から2問を選択回答) 制御工学、信号処理、電子回路、情報処理/最適化、電磁気学、通信工学、計測工学、光学、アンテナ/伝送線路、電子材料/半導体工学	論述式 (以下に関連する問題、1問選択回答) 1.通信システム設計の基礎に関するもの 2.アンテナ・レーダセンシングの基礎に関するもの 3.電磁気学・伝送の基礎に関するもの 4.ネットワークアーキテクチャ・プロトコルの基礎に関するもの
船舶海洋工学		択一式 (以下から2問を選択回答) 制御工学、信号処理、計測工学、機械力学、材料力学、構造力学、弾性力学/塑性力学、振動解析、数値解析/有限要素法(FEM)、熱力学/統計力学、流体力学、水中音響	論述式 (以下に関連する問題、1問選択回答) 1.流体力学・推進・耐航の基礎に関するもの 2.海洋観測・航法の基礎に関するもの
機械工学		択一式 (以下から2問を選択回答) 制御工学、信号処理、計測工学、機械力学、材料力学、構造力学、弾性力学/塑性力学、振動解析、数値解析/有限要素法(FEM)、熱力学/統計力学、流体力学、破壊力学、燃焼工学、伝熱工学	論述式 (以下に関連する問題、1問選択回答) 1.材料力学・構造力学の基礎に関するもの 2.弾塑性・破壊・数値解析(FEM)の基礎に関するもの 3.振動現象の基礎に関するもの 4.数値シミュレーションの基礎に関するもの 5.数値シミュレーション結果の解釈と意思決定の基礎に関するもの

## 10 選考スケジュール（令和8年度）

- ・募集開始: 令和8年7月31日（金）
- ・応募締切: 7月31日（金）
- ・一次試験結果通知: 8月31日（月）
- ・二次試験（筆記試験）: 10月13日（火）～11月20日（金）のうち1日を後日指定し、応募者が希望する主要都市のテストセンターにおいて実施。（実施日は6月末日までに本募集要項の更新により通知、実施場所は9月30日（水）までに防衛装備庁から一次試験の合格者に個別に通知）
- ・三次試験（口述試験及び身体検査）  
: 12月4日（金）までに事前連絡の上、12月16日（水）又は23日（水）に実施  
なお、受験者が多数となった場合は、12月14日（月）～12月25日（金）のうち上記2日を除く1日を指定する場合があります。
- ・最終結果通知: 令和9年1月22日（金）まで
- ・学資金貸与開始: 令和9年2月

## 11 奨学金の継続条件

自衛隊奨学生（防衛装備庁・研究職技官）は、毎年1回、前年度分が反映された学業成績表及び身体検査結果の提出を求められます。

## 12 貸与の廃止

貸与が廃止されるケースには、次のようなものがあります。

- (1) 心身の故障のため修学の見込みがないとき
- (2) 学業成績が著しく不良となったとき
- (3) 自衛隊奨学生であることを辞退したとき
- (4) 隊員（防衛装備庁職員）となる適格性を欠くと認められるとき
- (5) 大学院修士課程に入学するための試験に不合格になったとき（複数受験頂くことは可能です。）
- (6) 防衛装備庁が指定する職員採用のための選考において不合格となったとき

## 13 返還免除制度

自衛隊奨学生でなくなったとき又は隊員（防衛装備庁職員）となった者が退職したときは、貸与された学資金の全額を2年以内に返還することとなりますが、引き続いて隊員であった期間が4年を超える場合で次のいずれかに該当するときは、学資金の全額又は一部

の返還が免除されます。

- (1) 在職期間が貸与期間の 1.5 倍以上であるときは、学資金全額を返還免除
- (2) 在職期間が貸与期間の 1.5 倍に達しないときは、在職期間を貸与期間の 1.5 倍に相当する数で除して得た数値を学資金の全額に乗じて得た額を返還免除
- (3) その他、死亡又は心身障害の状態となった場合にも、全額又は一部の返還を免除される場合があります。

#### 14 その他

- ・他の給付型／貸与型奨学金との併給は可能ですが、当奨学金の他に検討している奨学金制度の規定を必ずご確認ください。
- ・自衛隊奨学生として選考された者であっても、学資金貸与開始年月に採用要件に該当する大学等に在学していない場合は、学資金の貸与はされません。
- ・受験のための交通費及び宿泊費は、各自の負担になります。

#### 15 個人情報の取り扱い

申請書類に記載された個人情報は、選考、学資金に係る管理及び手続き並びにあらかじめ本人の同意を得る目的のみに使用し、厳重に管理します。

#### 16 申請書類の提出及びお問い合わせ先

防衛装備庁長官官房人事官付 自衛隊奨学生制度担当  
住所 : 〒162-8870 東京都新宿区市谷本村町5-1  
Email : [saiyo@atla.mod.go.jp](mailto:saiyo@atla.mod.go.jp)

※申請書類提出後の変更は、速やかにこちらまでお知らせください。

令和8年度自衛隊奨学生の選考スケジュール

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
イベント	受付期間 →7/31					・一次試験結果通知(8/31まで) ・二次試験日程通知(9/30まで)	10/13 ・二次試験 ・1日を指定(後日更新・土日優先) ・主要都市のテストセンターで受験	11/20 ・二次試験結果・日程通知(12/4まで)	12/14 12/25 ・三次試験 ・応募者多数の場合は別日を指定 ・三次試験(12/16 or 12/23)	・最終結果通知(1/22)	・学資金貸与開始(2/15)
	・令和8年7月31日(金)	一次試験(書類選考)									
実施場所		・一次試験の書類選考はメールで提出した書類を基に選考					・二次試験会場は、札幌、帯広、仙台、金沢、東京23区、東京多摩地域、名古屋、大阪、福岡、沖縄を予定		・三次試験会場は、東京都新宿区の防衛装備庁本庁(防衛省敷地内)		

自衛隊奨学生の選考～防衛装備庁入庁までの流れ

自衛隊奨学生は、大学院修了前に、防衛装備庁が指定する職員採用のための選考に合格する必要があります。学位を取得後、防衛装備品に係る最先端の研究開発を担う人材として、防衛装備庁の研究所等において勤務することになります。

自衛隊奨学生は、将来の業務に資する知識を身に付けるため、防衛装備庁が実施する研究所見学会等の研修に参加することができます(任意)。また、入庁後のキャリアパスは、研究開発を中心としたものとなりますが、昇格等については、国家公務員採用総合職試験による採用者と同等に扱われます。

